

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2025年度 第3回 FD・SD委員会
議事次第

日 時：2025年11月17日（月）メール審議

回答期限：2025年11月21日（金）正午

委員校：甲南大学（委員長校）・神戸市看護大学（副委員長校）

芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学、
神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、
神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、園田学園大学、宝塚医療大学、兵庫大学、
兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学 計 22校

I. 協議事項

- 2025年度FD・SD委員会自己評価（案）について（資料1）
標記に関し、森理事長から各事業委員会に、資料1-1のとおり依頼があった。
資料1-2の「2025年度FD・SD委員会事業自己評価（案）」について審議。

II. 報告事項

1. 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて（資料2）
標記に関し、2025年8月30日（土）、31日（日）に神戸学院大学にて開催し、461名が参加。
各プログラムの詳細は、資料2の「第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム報告書」
のとおり。
2. FD・SD委員会における「FD・SD共通化」について（資料3）
2025年9月30日（火）にFD・SD委員会委員およびコンソーシアム担当者に対し、「FD・SD共通化」
に関する取組として、2026年8月に「大学事務職員のためのSDワークショップ」、2026年9月に
「大学教職員共通スキルとしてのデータ分析研修」を実施することを案内。詳細は、資料3「大学コ
ンソーシアムひょうご神戸FD・SD委員会FD・SD共通化施策について」のとおり。

III. 連絡・調整事項

1. 「学修成果の把握・可視化のためのアンケート設計」について（資料4）
日時：2025年11月20日（木）14:00～16:00
実施方法：オンライン（Zoom）
2. 「認証評価に関するFD・SD研修」について（資料5）
日時：2026年2月10日（火）13:00～16:00
実施方法：対面・オンライン（Zoom）併用
3. 2025年度FD・SD委員会の開催予定と主な議題について
・第4回（翌2月）：2026年度事業計画・予算（案）について
・第5回（翌3月）：2025年度事業報告・決算（案）について

以上

<資料一覧>

- 【審議事項 1】 資料 1-1：事業委員会における 2025 年度事業の実施内容（結果）と
自己評価の作成について（依頼）
- 【審議事項 1】 資料 1-2：2025 年度 FD・SD 委員会事業 自己評価（案）
- 【報告事項 1】 資料 2：第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム 報告書
- 【報告事項 2】 資料 3：大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD 委員会 FD・SD 共通化施策について
- 【連絡・調整事項 1】 資料 4：「学修成果の把握・可視化のためのアンケート設計」チラシ
- 【連絡・調整事項 2】 資料 5：「認証評価に関する FD・SD 研修」チラシ

2025年11月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 森 康俊

事業委員会における2025年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成について（依頼）

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施いただきました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

記

1. 各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2025年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出

2025年度事業計画（添付1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12月4日（木）正午

2. 今後のスケジュール

- (1) ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12月
- (2) 第9回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12月
- (3) 第7回理事会による事業改善提案の審議：1月
- (4) 各事業委員会へのフィードバックと2026年度事業計画・予算提出依頼：1月
- (5) 第11回企画運営委員会にて2026年度事業計画・予算検討：2月
- (6) 第8回理事会による2026年度事業計画・予算審議：3月
- (7) ひょうご産官学連携協議会にて、2026年度事業計画・予算審議：3月

（添付書類）

- ・添付1 2025年度 事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：田頭・松岡）

電話：078-271-0233 メール：kanri@consortium-hyogo.jp

【2025年度 FD・SD委員会 事業計画】

○目的

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、闊達な意見交換の場を創出する。

以上の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

○委員校

(全：22校)

委員長校：甲南大学、副委員長校：神戸市看護大学

委員校：芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、園田学園大学、宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学

○中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標/予算等

課題及び期待される効果	取組	達成目標	活動指標	予算（千円）
課題⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進 1. 加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開 通年を通して情報共有の仕組みを構築し、大学間で多様な研修プログラムを共有することにより、加盟校教職員の資質向上に寄与することが期待できる。	1. 加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	各年セミナー5件以上	参加者数100人以上／年	60
課題⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進 2. FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める効果が期待できる。また、加盟校の担当者間での情報交換を通じて、大学間の人材交流の促進も期待できる。	2. FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	各年参加者数50名以上	開催数：3回以上／年	440

【2025年度 FD・SD委員会 事業計画（⑥取組1）】加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）			報告（3月記載）		
<p>1. 情報収集 Webフォームにて加盟校のFD・SDセミナー（学外公開可のもの）の情報収集を行う。</p> <p>2. 情報提供 加盟校のFD・SDセミナーの情報について、大学コンソーシアムひょうご神戸よりメール周知ならびにホームページ上での公開等により情報共有を行う。</p> <p>3. 定期的な協力依頼 半年に1回程度、加盟校へのFD・SDセミナーの情報提供依頼を実施するなど、適宜、本取り組みへの理解と協力を求める。</p> <p>※【参考】2024年度の情報提供テーマ例 「生徒化する大学生」 「障害理解セミナー」 「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム2025」</p>			<p><活動内容></p> <p>1. 情報収集 Webフォームを活用した情報共有の仕組みを用いて、通年で各校から学外公開可能なFD・SDセミナー情報を受け付けた。</p> <p>2. 情報提供 加盟校のFD・SDセミナーの情報を、毎月配信するメールマガジンで案内するとともに、大学コンソーシアムひょうご神戸HPにも掲載し、広く情報提供を行った。 ・メルマガ配信：7回 ・掲載セミナー数：8校7件 ・セミナー参加者数：728名</p> <p>3. 定期的な協力依頼 第1回FD・SD委員会（2025年5月2日）にて、加盟校へFD・SDセミナーの情報提供を依頼した。</p> <p><自己評価> 加盟校によるFD・SDセミナーの公開については、加盟校に広く周知されている。10月末現在で8校7件のセミナーが公開され、728名が参加した。本取組は、加盟校が大学間で連携・協力しながら、教職員の資質向上を図る研修と交流の機会を提供するものであり、有益であるとともに、今後も継続すべき取組であるとする。</p>					
<p>達成目標に対する実績 【達成目標】各年セミナー5件以上</p>			<p>公開セミナー：8校7件</p>					
<p>活動指標に対する実績 【活動指標】参加者数100人以上／年</p>			<p>参加者数：728名</p>					
<p>自己評価基準：対到達目標※</p>			<p>4</p>					
<p>自己評価基準：対継続性※</p>			<p>4</p>					
事業収支	収入	60,000円	支出	0円	収支	60,000円	支出	収支

理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）

--	--	--	--	--	--	--	--	--

※自己評価基準：対到達目標	4：当初計画を上回って達成 2：当初計画をやや下回った	3：当初計画を達成 1：当初計画を下回った	※自己評価基準：対継続性	4：本プログラムは継続すべき 2：本プログラムの継続には改善が必要	3：本プログラムは継続しても良い	1：本プログラムは中止すべき
---------------	--------------------------------	--------------------------	--------------	--------------------------------------	------------------	----------------

【2025年度 FD・SD委員会 事業計画（⑥取組2）】FD・SD情報交換会、セミナー等の開催

計画（4月記載）		自己評価（12月記載）		報告（3月記載）					
<p>1. 大学教育等に関する講演会等の開催</p> <p>●テーマ 学修成果の把握・可視化のためのアンケート作成について（予定） ○講師：東京科学大学 森雅生先生、松本清先生（予定） ○日時：2025年11月～12月（予定）</p> <p>2. 内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催</p> <p>●テーマ① ※FD・SD共通化としての研修を予定 ○講師：近畿大学 IR・教育支援センター准教授 竹中喜一先生（予定） ○日時：2025年9月3日（予定） ○開催方法：対面（予定）</p> <p>●テーマ② ※認証評価に関する研修、セミナー等を予定 （受審大学による受審経験に関する講演/認証評価基礎FD・SD/実務者向けFD・SD等を検討） ○講師：神戸大学 戦略企画室 教授 高田英一先生（予定） ○日時：2026年2月～3月</p>		<p><活動内容></p> <p>1. 大学教育等に関する講演会等の開催</p> <p>●テーマ：学修成果の把握・可視化のためのアンケート設計 ○講師：東京科学大学 森雅生先生、松本清先生 ○日時：2025年11月20日（予定） ○開催方法：オンライン（アーカイブ配信あり）</p> <p>2. 内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催</p> <p>●テーマ①：大学教職員共通スキルとしてのデータ分析研修 ※FD・SD共通化研修として実施 ○講師：近畿大学 IR・教育支援センター准教授 竹中喜一先生 ○日時：2025年9月3日 ○開催方法：対面 ○参加者数：41名（加盟校：10校28名、非加盟校：10校12名、講師1名） ○内容：大学において重要性が高まっているデータ分析スキルの習得・向上を図るとともに、加盟校間でのFD・SDの共通化による教職員研修業務の効率化を目的として開催した。研修では、単なる知識の習得にとどまらず、Excelを用いたハンズオン形式の実習を行い、データ分析手法の実践的な活用を意識した内容とした。また、参加者をグループに分けて実習を行ったことで、様々な着眼点を共有し、相互に学び合う機会となった。</p> <p>●テーマ②：認証評価に関するFD・SD研修 ○講師：神戸大学 戦略企画室 教授 高田英一先生 ○日時：2026年2月10日（予定） ○開催方法：対面・オンライン併用</p> <p><自己評価></p> <p>10月末現在、計画していた3件のセミナーのうち1件を開催済で、残る2件についても実施が確定しており、本取組は計画どおりに進んでいる。 9月に開催した「大学教職員共通スキルとしてのデータ分析研修」については、事後アンケートで参加者全員が「非常に満足」「満足」と回答し、高い評価が得られた。今後もこの結果を踏まえ、加盟校教職員のFD・SD共通化と交流を促進しつつ、研修業務の効率化を図り、加盟校間の連携強化につながる取組として継続していきたい。</p>							
達成目標に対する実績 【達成目標】各年参加者数50名以上		参加者数：41名 (10月31日現在)							
活動指標に対する実績 【活動指標】開催数：3回以上/年		開催数：1回							
自己評価基準：対到達目標※		4							
自己評価基準：対継続性※		4							
事業収支	収入	440,000円	支出	32,940円	収支	407,060円	支出		収支
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）									
※自己評価基準：対到達目標		4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った			※自己評価基準：対継続性		4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき		

第22回 全国大学コンソーシアム 研究交流フォーラム 報告書

2025.8.30(土)-31(日)

兵庫県開催

会場：神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパス

1 開会挨拶
シンポジウム①

2 シンポジウム②
情報交換会

3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍



大学コンソーシアムひょうご神戸枠 計331名

- ・加盟校の教職員 24校146名
- ・加盟校学生 12大学74名
- ・企業 33社59名
- ・自治体 10自治体27名
- ・一般 8名
- ・コンソ職員 17名

他エリアからの参加 計130名

- ・大学教職員 79名
- ・学生 10名
- ・企業 12名
- ・自治体 6名
- ・コンソ職員 23名

参加者合計 461名

- ・シンポジウム 334名
- ・情報交換会 241名
- ・分科会 131名
- ・SDワークショップ 58名
- ・「ライフロングキャリア」共創セッション 52名

共催
全国大学コンソーシアム協議会、
一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

協力
神戸学院大学(会場校)

後援
文部科学省 / 一般社団法人国立大学協会 / 一般社団法人公立大学協会 / 一般社団法人日本私立大学連盟 / 日本私立大学協会 / 全国公立短期大学協会 / 日本私立短期大学協会 / 全国知事会 / 朝日新聞社 / 毎日新聞社 / 読売新聞社 / 日本経済新聞社 大阪本社 / 一般社団法人共同通信社 / 兵庫県 / 神戸市 / 神戸新聞社 / 神戸商工会議所 / 一般社団法人兵庫県経営者協会

テーマ

激変する将来社会を切り拓く 新たな人材の育成にむけて

～不易流行で考える大学間連携と産官学協働～

開会挨拶／シンポジウム①

ご挨拶



フォーラム 開会挨拶
大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 森 康俊氏
(関西学院大学 学長)

大学コンソーシアムひょうご神戸は、2006年に「県下すべての大学によるすべての大学のための」組織として設立され、本年で20年目を迎える。国際性を軸に留学生インターンシップや相談窓口等を継続しており、東日本大震災復興支援や「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」による防災啓発にも取り組む。少子化やAIの進展等、変化の大きい環境下で、人材育成には産学官協働が不可欠であり、教育の本質を守りつつ革新を取り入れる「不易流行」の姿勢が求められる。本フォーラムは、大学間連携の役割を見つめ直し、多様な立場から意見交換を行う機会として開催する。



フォーラム 開会挨拶

兵庫県副知事
服部 洋平氏



全国大学コンソーシアム協議会
代表幹事 小原 克博氏
(大学コンソーシアム京都 理事長、
同志社大学 学長)

大学コンソーシアム京都
専務理事、事務局長
小林 慎一氏(代読)



フォーラム 閉会挨拶

全国大学コンソーシアム協議会
代表幹事 川野 祐二氏
(エリザベト音楽大学
理事長・学長)



情報交換会 開会挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事 備酒 伸彦氏
(神戸学院大学 学長)



情報交換会 乾杯挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸
副理事長 藤澤 正人氏
(神戸大学 学長)

シンポジウム①話題提供

テーマ 大学間連携と地域共創

～社会変革期におけるコンソーシアムの可能性～

濱名理事から冒頭、中教審「知の総和」答申で、大学間連携の必要性が高まっており、大学を「地域課題解決に資する知の拠点」と位置づけ、地方自治体や産業界との連携による共創の場となることが求められているとの説明がありました。

吉見先生からは「人口減少とAI化のなかの大学の未来」というテーマで、AIによる「知の総和」答申の分析の披露から、日本の大学の置かれている危機的状況、教育の質向上が不可欠な状況と、そのために必要な大学改革、文理融合ではない文理複眼教育の姿、リカレント教育の本質化のための高等教育の転換、最後に今後の大学のミッションとして地球人を育成するために、大学と地域のあるべき姿等、多くの示唆に富んだ話題提供がありました。

続いて岡田氏からは、ご自身の事業承継と新たな事業創出における経験を通じた、産学官連携の可能性と課題についてお話があり、次に島藤氏からは、企業における人材育成の現状紹介と、大学が地域、企業と連携して提供する新たなリカレント教育モデルについて提案がありました。

最後に登壇した本荘氏からは、立ち上げ時から関わってこられた「大学コンソーシアムひょうご神戸」について、いくつかのターニングポイントとご自身の経験を紹介され、コンソーシアムのあるべき姿についてお話をいただきました。

登壇者 日本テクノロジーソリューション株式会社
代表取締役社長 岡田 耕治氏

エクスアールジョン株式会社
代表取締役 島藤 真澄氏

國學院大学 観光まちづくり学部 教授 吉見 俊哉氏
東京大学 名誉教授

関西学院大学
学生生活支援機構事務部 部長 本荘 雅章氏

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事(関西国際大学 学長) 濱名 篤氏



1 開会挨拶
シンポジウム①

2 シンポジウム②
情報交換会

3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

2

シンポジウム②・情報交換会

シンポジウム② ディスカッション



まず、質疑応答では、日本の高等教育が欧米キャッチアップ型で形成されてきたことの問題点や、AIへの問題認識とAIの限界についてのお話がありました。さらに、大学教育においては学生が「AIより自分自身の回答が正しい」と思える論争力や経験力の育成が重要であるとの指摘がありました。続いて、自治体・大学・産業界が教育について議論する際には、その地域の未来を見据えたビジョンが必要ではないかのお話がありました。

その後の意見交換では、市場原理主義の行き着いた結果としての東京一極集中(東京ブラックホール論)に関する話題が提供され、これを中心に議論が進行しました。大学と産業界の連携において、コンソーシアムは、どのようなストーリーを紡ぎ出せるのか、また、どのように大学と産業界との時間軸の違いを仲立ちするののかについての言及がありました。さらに、産業界や自治体と大学を結ぶコンソーシアムについては、主体性をどこに置くのかや、アカデミックとしての価値をコンソーシアムが提供してほしいとの意見が出ました。地域と大学間連携については、持続可能性が重要であり、兵庫県を始め地方にはそういった意味での価値があること、そしてコンソーシアムと企業連携には、地域の共通課題の解決に向けて共創を意識することが重要であることが再確認されました。



アンケートから

「AIとの付き合い方」や「これからの大学コンソーシアムの役割」等、有識者の多様な視点に触れられたことが大きな学びとなったとの声が多く寄せられた。特に、吉見先生による「大学は人生で3度通う場である」という提起や、「学生の潜在力をどう伸ばすか」という問いかけは、大学の存在意義を改めて考える契機となった。また、AIを盲信するのではなく、人間の知とどう共存させるかという視点も印象に残ったとの意見が多く見られた。

さらに、企業経営者から語られた「早い段階でジャンルを決めず、まず挑戦してみる姿勢」「スピード以外の軸で物事をとらえる重要性」等は、学生教育や大学運営にも示唆を与える内容として高く評価された。

そのほか、「産官学が交わり新たな価値を生み出すことの意義」や、「大学間連携の今後の方向性を深く考える機会となった」という声も寄せられ、大学・企業・行政の立場を越えて交流できたこと自体が、今後の活動の糧になるとの感想が目立った。全体を通じて、登壇者の知見や多角的な議論は「参考になった」「自団体の取組に活かしたい」と前向きに受け止められており、シンポジウムは大学の未来と社会との接点を考える有意義な場として高い評価を得た。

1 開会挨拶
シンポジウム①

2 シンポジウム②
情報交換会

3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

第22回 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム
激変する将来社会を切り拓く新たな人材の育成にむけて
～情報交換会～



情報交換会



全国から集まった大学・コンソーシアム関係者や企業、地方自治体の皆さまを迎えた立食形式の情報交換会は、鏡開きで華やかに開幕。続いて、灘の酒リブランディングに取り組んでいる神戸学院大学の学生が乾杯用の日本酒を配布し、会場の一体感を高めました。

兵庫に根差した企業によるブース出展等では、地元ならではの料理や飲料が振る舞われ、参加者は味覚を楽しみながら交流を深めました。ポスターセッションや学生司会によるレクリエーションも加わり、和やかな雰囲気の中、交流を深める貴重なひとときとなりました。

アンケートから

様々な気づき、出会いがあり、有意義かつ楽しい場であった。コンソーシアムは大きな可能性があり、大学、企業、自治体が共にどう活用していくかが問われている。地域の持続可能性を確保する上で欠かせないと感じた。

情報交換会では沢山の大学職員、企業の方とお会いし、留学生支援のネットワークを構築できた。

3 ポスターセッション・パネル展示

1 開会挨拶
シンポジウム①

2 シンポジウム②
情報交換会

3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

1日目 ポスターセッション

各大学コンソーシアムが主体となった教育連携や地域貢献の取組を11団体が紹介。大学関係者に加え企業や学生等多くの方々が来場し、展示内容をじっくり見学するとともに活発に意見交換や情報共有を行いました。各コンソーシアムの先進的な事例や、創意工夫に富む多様な活動に触れる貴重な機会となりました。

【出展団体】公益財団法人 大学コンソーシアム京都、公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム、大学コンソーシアム八王子、大学コンソーシアムやまがた、いわて高等教育コンソーシアム、一般社団法人 教育ネットワーク中国、一般社団法人 高等教育コンソーシアム宮崎、公益社団法人 大学コンソーシアム石川、大学コンソーシアム岡山、一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸、特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

アンケートから

時間が長く設定されていたので、他エリアのコンソの方々とじっくりお話をすることで、他のコンソの活動方針の多様さ等勉強することができた。連携の可能性も感じられ、大変有意義だった。

多くの大学関係者にこのようなフォーラムに触れて新しい気づきが生まれるよう、私も大学や自分のコンソーシアムに戻って発信する。全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの価値の高さを社会に向けて発信をお願いしたい。



パネル展示

展示テーマ 兵庫から発信する大学間連携や産官学連携

大学コンソーシアムひょうご神戸に加盟する15校23ブースが「大学間連携」「産官学連携」「『震災30年』阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ大学の活動について」の3テーマにて発信。コアタイムには多くの来場者が足を止め、パネルを読み込みながら議論や質問を交わす姿が見られました。学生も積極的に説明に立ち、参加者の関心を惹きつける姿勢が印象的でした。 ※地域活性化に資する人材育成を目指す、学生交流委員会事業として実施。

【出展大学・団体】明石工業高等専門学校、大手前大学、関西国際大学、関西学院大学、甲南大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭大学、神戸親和大学、兵庫大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学、一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

アンケートから

震災30年を迎えて兵庫県、神戸の大学が災害の学びと啓発活動を続けておられることに感銘を受けた。地震災害は悲劇だが、地域に住まう人々の人的資本の価値を問う試練なのだと感じた。

各大学での取り組みがわかりやすくまとめられていて、地域共創科目やサービスマニエール科目等とても興味深かった。また解説学生の、熱心で丁寧な様子が印象的だった。本学のオープンキャンパス等の発表の場の参考にしたい。

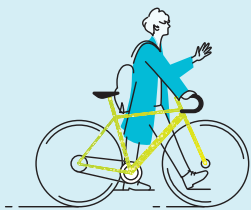
兵庫県からの受託事業

～若者による「震災の教訓をつなぐプロジェクト」～

阪神・淡路大震災から30年。あの日の教訓を次世代へとつなぐため、震災を知らない世代の学生たちが、取材や調査を重ね、防災・減災啓発の動画を企画・制作。地域社会や全国に向けて発信しています。



4 分科会



第1分科会 公益財団法人大学コンソーシアム京都

産官学オール京都での留学生誘致の推進

～留学生の定着に向けて～

コーディネーターの今西氏より、留学生政策の推移と大学コンソーシアム京都の海外留学派遣プログラムの実績が紹介されました。続いて京都市の上田氏より、京都市の大学、学生数、留学生数等に関する状況と、留学生受け入れに関する施策についてお話がありました。次に龍谷大学の笠森氏より留学生就職支援と留学生の実情について報告があり、その後は、留学生を地域で受け入れるための課題や取り組み策、留学生の就職支援等について質疑応答が行われました。



アンケートから

総じて、「留学生」と一括りにするのではなく、個々人の文化的背景や諸事情に配慮した支援が必要であると再確認できた。これは、外国人留学生に限らず、学生支援の観点からも共通する内容である。

当市においては、技能実習生による労働力の確保しかできていないが、高度人材の確保は今後の課題となるので大いに役に立った。

1 開会挨拶
シンポジウム①

2 シンポジウム②
情報交換会

3 ポスターセッション
パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

第2分科会 一般社団法人高等教育コンソーシアム宮崎

共創で描くリカレント教育の未来

～共に学び・共に地域を創る場をどのようにして構築するか～

コーディネーターの中山氏より、宮崎県内の高等教育機関すべてが参加するCOC+R事業の概要とリカレント教育の現状が紹介されました。続いて宇都宮大学の佐々木先生より、リカレント教育の歴史的背景と再定義、またリカレントとリススキリングの相互補完性等について話題提供がありました。次に全国初の大学等連携推進法人が認定された山梨県立大学の杉山学長補佐より、「地域連携プラットフォーム」が提供する教育プログラムに地域各機関が関与する等の特徴について説明がありました。(株)リンクアンドモチベーションの榎原氏からは、リカレント教育が企業にもたらすメリットと実施の際に留意すべきポイントについてお話がありました。その後、リカレント教育のアウトカム、オンライン教育の活用等のトピックで質疑応答がなされました。



アンケートから

リカレント教育の鍵はアンラーニングであり、学生と社会人が共に学び合う場が重要になる。教育を教えることと捉える見方からの脱却が不可欠だと感じた。教育に対する考え方が変わった。

榎原さんの「光合成」というワードが大変しっくりきました。また、どこを動かすとうなるのか、誰がどう思っているのかなど、たいへん参考になった。

第3分科会

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

【TKK3大学連携事業 15周年企画】

阪神・淡路大震災から30年

「若者と考える 被災地支援と語り継ぎのチカラ」

TKK(東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学)3大学連携プロジェクトとして、防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の取り組みが紹介されたのち、TKK3大学に加えて金沢大学、熊本学園大学の5名の学生より、防災・減災・ボランティアに関するそれぞれの活動について発表がありました。その後の意見交換では、学生が防災等の活動へ参加することへの意義や期待、大学が学生の活動をどのように支援できるか、またこれらの活動を学生教育にどのように繋げていくかについて議論されました。



アンケートから

学生の活動報告内容が、今後の業務・学生支援のために有益であったと思う。

他大学と連携して被災地を支援する仕組みがあること、実際に活動した学生の話を開けたことが、とてもよかった。この活動に参加できるよう加盟校に働きかける動きを取りたい。

5 学生の活躍

学生ステージ



流通科学大学の外国人留学生8名が、ミャンマー舞踊「ダジャンの踊り」を披露。ミャンマーのお正月（ダジャン祭）を祝い、清め・再生・豊穡・喜びを象徴する、華やかで躍動感ある舞が会場を魅了しました！

芦屋大学の外国人留学生2名によるステージでは、まず、中国の伝統楽器「二胡」で「戦場のメリークリスマス」と「茉莉花」が奏でられました。続いて、イスラム教の聖典コーランの詠唱が加わり、重厚で清澄な響きが広がるひとときとなり、参加者は異文化の奥行きを実感しました。

※グローバルな教育支援を目指す、国際交流委員会事業として実施。



1 開会挨拶
シンポジウム①

2 シンポジウム②
情報交換会

学生司会

加盟校の放送部学生6名が会の進行を担いました。シンポジウムでは、緊張しつつも堂々と司会を務め、会場は温かく華やかで雰囲気にも包まれました。さらに情報交換会では、進行だけでなくレクリエーションとして「関西弁講座」を企画し、交流の場を盛り上げました。



3 ポスターセッション
パネル展示

午前中には、2プログラムも実施！

大学事務職員のためのSDワークショップ

甲南女子大学との共催にて「大学事務職員のためのSDワークショップ」が開催され、加盟校事務職員や学生ら約40名が参加。このワークショップは甲南女子大学が進める「全員発揮型のリーダーシップ」教育と連携して実施。参加者は自らが直面する業務課題を題材に、学生アクションラーニングコーチの進行のもと、質問中心の対話を通じて課題の本質を探り、解決のための行動計画を立案しました。グループごとのセッション後には全体共有・振り返りが行われ、さらに昼食をとりながらネットワーキングの機会も設けられました。

参加者からは「『質問会議』という新たな課題解決手法を学べた」「目の前の課題の根本的な原因に気づけた」「職員同士で業務の課題について共有し、アドバイスし合える貴重な時間となった」といった声が寄せられ、日々の業務に活かせる気づきと人的ネットワークを得る有意義な機会となりました。



産・官・学でつなぐ「ライフロングキャリア」共創セッション

産官学から約50名が参加し、兵庫県における若者の県外流出と地元定着の課題を背景に、キャリア支援の可能性を探るセッションを開催しました。第1部では、発達障害やグレーゾーンの若者に焦点を当て、多様性採用と支援の在り方を共有し、ニューロダイバーシティの視点から誰もが力を発揮できる社会への理解を促進しました。第2部では、キャリアセンターによるリカレント教育の事例を紹介し、卒業後支援と地元定着、地域ブランディングへの展開を検討しました。活発な意見交換を通じて産官学の連携機運が高まり、支援モデル構築や雇用環境改善に向けた実践的ヒントが得られました。

参加者からは「発達障害やグレーゾーンへの理解が深まった」「学生のリカレントを考える機会となった」「異なる立場の意見交換が有意義だった」との声が寄せられました。



4 分科会

5 学生の活躍

一般社団法人

大学コンソーシアムひょうご神戸

〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8 兵庫国際交流会館1F
 ■阪神「岩屋」駅:徒歩3分 ■JR「灘」駅:徒歩6分 ■阪急「王子公園」駅:徒歩10分
 <受付時間>月～金曜 9:00 - 17:00
 ☎078-271-0233 ☎078-271-0244
 ✉info@consortium-hyogo.jp



HP

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

FD・SD委員会 委員 各位

コンソーシアム ご担当者 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

FD・SD委員会 委員長校 甲南大学

大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD委員会における「FD・SD 共通化」について(ご案内)

拝啓 平素より当コンソーシアムの活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本委員会では、従来より加盟校教職員の資質向上を目的として、FD・SD セミナーの開催や加盟校間での相互公開を進めてまいりました。さらに2023年度からは、加盟校にとっての付加価値の拡大を目指し、「学内業務の効率化」「PR・プロモーション」「外部資金の調達」を新たな検討テーマとして取り組んでおります。

その一環として、FD・SD委員会では「FD・SDの共通化」を推進しており、当コンソーシアムの強みでもある大学間交流や加盟大学数を活かし、共同で実施・相互に活用できる仕組みを整えることで、研修業務の効率化を図るとともに、若手職員をはじめ教職員にナレッジ共有や交流の機会を提供してまいりたいと考えております。

【2024年度 アンケートの実施と結果について】

「FD・SD 共通化施策案」に関する意向調査を実施した結果、加盟校におけるニーズは以下の2点に整理されました。

1. すでに大学内で実施している(あるいは実施したいができていない)研修等を、共同で行うFD・SD活動
2. 加盟校間の相互協力や交流を深めるFD・SD活動

【2025年度の取り組みについて】

2024年度のアンケート結果を踏まえ、2025年度は以下のプログラムを実施いたしました。

- 「大学教職員共通スキルとしてのデータ分析研修」(2025年9月3日実施)
- 「大学事務職員のためのSDワークショップ」(2025年8月30日実施)

いずれの研修においても、アンケートでは参加者全員が「非常に満足」「満足」と回答し、「シリーズ化して継続的に実施してほしい」「他大学職員との交流を通じて視野が広がり、現場課題を共有できた」などの声が寄せられ、たいへん高い評価をいただいております。

【2026年度の予定について】

2026年度も引き続き、以下のプログラムを予定しております。

- 2026年8月:「大学事務職員のためのSDワークショップ」
- 2026年9月:「大学教職員共通スキルとしてのデータ分析研修」 ※2025年度と同一の内容を予定

つきましては、これらの研修を 貴学の職員研修プログラムの一環として積極的にご活用くださいますようお願い申し上げます。今後も加盟校教職員のFD・SD 共通化と交流を推進し、加盟校間の連携強化に資する取り組みとして継続してまいります。

敬具

添付資料:資料1:大学教職員共通スキルとしてのデータ分析研修 チラシ・報告書

資料2:大学事務職員のためのSDワークショップ チラシ・報告書

【お問合せ先】大学コンソーシアムひょうご神戸(田頭・山崎)
TEL:078-271-0233 メール:kanri@consortium-hyogo.jp

大学教職員共通スキル としてのデータ分析研修

9/3 (水) 13:00~16:30 (受付開始12:30~)

@兵庫国際交流会館 1階 Nadacom Station

参加費
無料!

大学コンソーシアムひょうご神戸では、従来より内部質保証やIR等に関するセミナーを開催してきました。また、中央教育審議会の「知の総和」答申において、教育の質を評価する新たな評価制度への移行が示されるなど、今後大学運営におけるデータ分析の重要性はますます高まると考えられます。

そこで今回は、IR担当者に限らず、広く大学教職員を対象に、“共通スキル”として身に付けておきたいデータ分析に関する研修を開催いたします。

本研修では、実際のデータ分析事例の紹介に加え、参加者が実際に手を動かしながら、代表値、相関関係、単純集計やクロス集計といった基本的な集計・分析への理解を深め、各大学での業務に活用していただくことを目指します。

※参加にあたっては、各自PCをご持参ください。

講師

竹中 喜一氏 (近畿大学 IR・教育支援センター准教授)

専門は、高等教育学・教育工学。博士(人間科学)。民間企業の勤務を経て、2008年に学校法人関西大学に専任事務職員として入職。その後、その後愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特任助教、講師、准教授を経て、2023年から現職。2023年より山梨県立大学特任准教授として教学マネジメントアドバイザーも務める。関西大学勤務時から約10年、教学IRを担当。著書に『シリーズ大学の質保証2学習成果の評価』(編著)、『大学SD講座4大学職員の能力開発』(共編著)、『大学IR入門』(分担執筆・近刊)等がある。

会場

兵庫国際交流会館 1階 Nadacom Station

✓ アクセス

- ・ 阪神「岩屋」駅徒歩3分
- ・ JR「灘」駅徒歩5分
- ・ 阪急「王子公園」駅徒歩10分



申し込み・その他

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員、本テーマに関心のある方ならだれでも参加可能です。

右のQRコードよりお申込みください。

(定員：60名)

Welcome



大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD セミナー 大学教職員共通スキルとしてのデータ分析研修 実施報告書

1. 日 時：2025年9月3日（水）13:00～16:30
2. 場 所：兵庫国際交流会館 1F Nadacom Station
3. 対 象：大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員および本テーマに関心のある方
4. 参加者：合計 38 名（加盟校 10 校 26 名、非加盟校 10 校 12 名）

【加盟校内訳】大手前大学(3)、関西学院大学(4)、甲南大学(6)、甲南女子大学(1)、神戸大学(2)、神戸学院大学(4)、神戸国際大学(1)、神戸市外国語大学(1)、神戸薬科大学(1)、流通科学大学(5)

※参加者は 8 グループ（各 4～5 名）に分かれて受講し、実習を行った。

5. 趣 旨：大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」における、FD・SD 委員会の取組課題⑥「大学教職員の研修機会の提供と交流の促進」事業の一環として、教職員の資質向上と教職員間の交流促進を目的とするものである。本研修においては、大学運営におけるデータ分析の重要性が高まる中、IR 担当者に限らず、広く教職員を対象として“共通スキル”としてのデータ分析手法を身につける機会とする。

6. プログラム

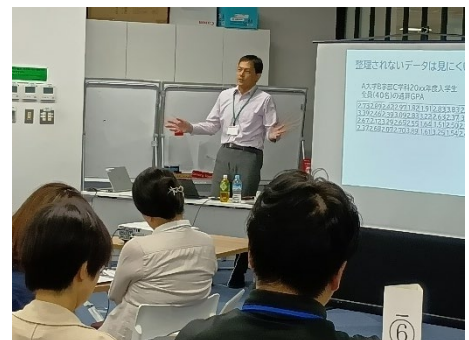
- (1) 講義（13:00～14:30） 近畿大学 IR・教育支援センター 准教授 竹中 喜一氏
- (2) ハンズオン実習（14:40～16:30）
- (3) ネットワーキング（16:30～17:00）

7. 内容詳細

(1) 講義

「データとその活用の意義と限界」として、データはそのままでは分かりづらいため、整理して「意味ある情報」へと変換する過程が分析であることを確認し、その意義と限界について理解を深めた。まず、データ活用の意義として「現状や課題の把握」「意思決定や合意形成への活用」が挙げられる一方で、「万能ではない」「測れないものを代替している」「解釈には必ず飛躍がある」といった限界も指摘された。その上で、単純集計やクロス集計、度数分布表やヒストグラムなど記述統計の基本的手法を学んだ。また、平均値・中央値・最頻値による分布の中心の把握、分散・標準偏差によるばらつきの把握といった基本統計量の意義を整理し、分析の基本である「順序」と「ばらつき」を理解した。

続いて、Excel を用いて、簡単な成績データを題材とした基本統計量の算出や箱ひげ図の作成、ピボットテーブルを活用したクロス集計などの演習を実践した。さらに、相関係数を用いて GPA と関連項目の関係を確認し、学科ごとの特徴や課題を導き出す演習を通じて、分析から教育改善や組織運営の示唆を得るプロセスを体験した。



(2) ハンズオン実習 (14:40~16:30)

講義で学んだ内容を踏まえて、架空の大学の学部の GPA や授業外学修時間、アルバイト時間、部活・サークル加入の有無、平均睡眠時間、アンケート結果等のデータを用いて各学科の特徴と課題をまとめ、各自がグループ内で発表した。



8. 参加者の感想

事後アンケートでは、27名から回答があり（回収率71%）、「本研修の満足度」については、「非常に満足」「満足」と回答した参加者が27名で100%であった。また、「業務に役立つと感じたか」との設問に対しても「非常に役立つ」「役立つ」と回答した参加者が27名で100%という結果となった。

自由記述では、「財務分析や経営状態の分析に活用できる」「自分1人では理解に時間がかかるが、講師から実例も踏まえて指導を受け、他の参加者と意見交換も行うことで、理解が進んだ」「実際にワークをする研修がなかったが、様々なツールを知ることができ、かつ、実践もできたので、学びは多かった」「分析する際の注意点、前提としなければならない事項、着目する点などについて、講師やグループのメンバーの知見を伺うことができた」といった感想が寄せられた。

また、加盟校教職員への設問については、19名から回答があり（回答率73%）、「加盟校間教職員の交流促進に役立ったか」との問いに対しては、「非常に役立った」「ある程度役立った」と回答した参加者が18名で94.7%となり、加盟校間教職員の交流の場としても有益であったことが確認された。

これらの回答から、参加者が本研修を通じて実務に活用できるデータ分析の基礎を学び、交流を深める機会を得られたことがうかがえる。

9. 所感

今回の研修は、大学においてその重要性が高まっているデータ分析スキルの習得・向上を図るとともに、加盟校間でのFD・SDの共通化による教職員研修業務の効率化を目的として開催した。研修では、単なる知識の習得にとどまらず、実際にExcelを用いたハンズオン形式の実習を通じて、データ分析手法を実務に活用できる力を養うことを重視した。また、参加者をグループに分けて実習を行ったことで、同一のデータから様々な着眼点が生まれる様子が見られた。

事後アンケートでは、参加者全員が「非常に満足」「満足」と回答し、高い評価が得られた。「他大学の方とも交流でき、有意義な時間であった」「シリーズ化して継続的に実施してほしい」といった前向きな声も寄せられ、本研修の有効性が裏付けられる結果となった。今回の結果を踏まえ、加盟校教職員のFD・SD共通化と交流を推進しつつ、研修業務の効率化を図り、加盟校間の連携を強化する取り組みとして継続していきたい。

参加費
無料

大学職員を目指す学生も参加OK!

大学事務職員のための



S D



ワークショップ

全国大学コンソーシアム
研究交流フォーラム
同日開催!

8/30 土 9:00~12:45

8:45~受付開始

@神戸学院大学

ポートアイランド第1キャンパス D号館3階アクティブスタジオ

アクセスマップはこちら



部署間の連携や
チームの活性化に
関心があるけど...

自らの成長を
通して大学を
よくしたい...

現在の業務に
行き詰まりを
感じている...



兵庫県内の学校のネットワーク構築を目的に、日々の業務で直面する課題を解決しながら、自らのリーダーシップスキルを磨く「アクションラーニング」手法を学べるワークショップです。実際の業務課題を題材に、チームでの対話や学びを通じ、解決策を導き出すプロセスを体験することができます。

対象

- ・大学コンソーシアムひょうご神戸に加盟する若手中堅大学事務職員
- ・大学事務職員を目指す学生

定員

80名 (先着順)
(大学事務職員60名、学生20名)

参加お申込はこちら

右記二次元コードから
お申込みください。



申込締切

7/31(木)

主催：一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸、甲南女子大学
協力：特定非営利活動法人日本アクションラーニング協会



当日のスケジュール

- 9:00 - 9:15 導入
9:15 - 10:25 グループワーク① セッション1回目
▶テーマ説明 → 質問中心の対話で問題の本質を探り、行動計画策定
10:25 - 10:40 全体共有・振り返り
10:40 - 10:45 休憩
10:45 - 11:55 グループワーク② セッション2回目
11:55 - 12:10 学びの共有・振り返り
12:10 - 12:45 カジュアルネットワーキング

「アクションラーニング（AL）」と「質問会議®」

アクションラーニング（AL）
の詳細はこちら⇒



「質問会議®」は、「アクションラーニング」をベースにした会議手法です。
ルールとプロセスに沿って質問を重ねることで、問題解決力や組織の学習力を高めます。

期待される効果

- ・組織の問題解決への気づきを得られる
- ・組織のコミュニケーションを円滑にする
- ・リーダーシップの育成につながる
- ・チームビルディングが実践できる
- ・個人の能力開発やモチベーション向上につながる
- ・組織の変革につながる
- ・将来組織を担う人材を育成できる



甲南女子大学×アクションラーニング（AL）

変化が激しく、正解が見えにくい時代には、リーダー1人が引っ張るだけでなく、メンバー全員がそれぞれの強みを活かしてチームに貢献する「**全員発揮型のリーダーシップ**」が必要です。

甲南女子大学では、この「全員発揮型のリーダーシップ」を育てる教育プログラムを2017年度から始め、2025年度にはすべての新生に受講を推奨することになりました。このプログラムの中で、多様な経験や価値観を持つチームを活性化し、新しい価値を生み出す力を身につけるために、学生ALコーチを育成しています。

学生ALコーチは、「質問会議®」と呼ばれる質問中心の対話の場を作ることでチームの関係を深め、問題を掘り下げて効果的な問題解決策を生み出すサポートをします。

大学コンソーシアムひょうご神戸は、産官学の多様な人材が協力して新しい価値を生み出すためのプラットフォームであり、これまでに学生ALコーチを活用した産学連携研修を実施してきました。
自分の問題を多角的に捉えて新しい解決策を見つけたい方や、そのプロセスを支援する対話の場づくりに興味がある方は、ぜひご参加ください。

甲南女子大学 副学長(リーダーシップ教育担当) リーダーシップ教育センター長 佐伯 勇

【参考】 甲南女子大学HPリーダーシップ教育 ⇒ <https://www.konan-wu.ac.jp/leadership/>

大学事務職員のためのSDワークショップ 実施報告書

1. 主催：大学コンソーシアムひょうご神戸、甲南女子大学
2. 日時：2025年8月30日（土）9:00～12:45
3. 場所：神戸学院大学ポートアイランド第1キャンパス D号館3階アクティブスタジオ
4. 趣旨：大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校事務職員のネットワーク構築および実際の業務課題を題材に、「アクションラーニング（以下AL）」の手法を通じて解決策を導き出すプロセスを体験し、リーダーシップスキルを高める機会とする。
5. 参加者：合計 59名
（内訳）・大学職員 16校 36名
・学生 1校 2名（甲南女子大学）
・学生ALコーチ 15名（甲南女子大学）
・講師 1名（甲南女子大学）
・オブザーバー 5名（甲南女子大学3名、兵庫県立姫路商業高等学校2名）
参加者は8グループに分かれてセッションを行った。グループ分けは下記のとおり。
Aグループ：学生支援系 Bグループ：入試系 C,Dグループ：教務・教学支援系
E,Fグループ：研究・社会連携系 G,Hグループ：経営・総務・人事系

6. プログラム

- (1)導入（9:00～9:15） 甲南女子大学 佐伯 勇先生
- (2)セッション1（9:15～10:25）
- (3)全体共有・振り返り（10:25～10:40）
- (4)セッション2（10:45～11:55）
- (5)学びの共有・振り返り（11:55～12:10）
- (6)カジュアルネットワーキング（12:10～12:45）

■導入

佐伯先生より、本ワークショップの目的およびALの手法を用いたセッションの進め方について説明があった。ワークショップの目的としては、加盟校職員間のネットワークを形成するとともに、日常業務で直面する課題に対して効果的な行動計画を立案できるようにすることが挙げられた。また、ALを体験することで、質問力、傾聴力、システム思考力、俯瞰力、振り返り力といったリーダーシップに関わるスキルを向上させることも重要な目的として示された。



■セッション

各セッションでは、アイスブレイクとして自己紹介を行った後、学生ALコーチの進行によりグループの問題提示者が抱える課題へのアプローチが実施された。セッションの最後には、各グループ内で活動を振り返り、参加者が感想を共有した。



■学びの共有・振り返り

各グループで出された質問について、全体で共有が行われた。「ALを日常生活でどのように活用しているか」という問いに対しては、「質問することで相手に意見を押し付けることなく

考えを伝えられる。自身の中に『セルフ AL コーチ』を置くことで会話の進め方や傾聴姿勢を振り返ることができる」「『ひとり質問会議』を通じて思考の整理や課題の深掘りが可能になる」といった内容が紹介された。また、他者との関わり方や物事の捉え方が変化したことや、就職活動における有効性についての実感も共有された。

続いて行われた感想共有では、問題提示者から「他者の意見を聞くことで当初の課題とは異なる新たな問題を発見できた」「質問を受ける中で具体的なアイデアが得られた」といった声があった。さらに「大学に共通する課題について、異なる部署のメンバーの視点から学ぶことができた」「質問の切り口が参考になり、自身の考えが整理できた」との意見も挙げられた。

最後に佐伯先生より、「質問会議は一見ルールに縛られているように思えるが、その枠組みを活かすことで新たな気づきを得られる。また、質問が傾聴を生み、課題の深掘りや仲間意識の醸成につながる」とのコメントがあった。さらに、意欲的に参加した大学職員や会場を提供した神戸学院大学に対する謝辞も述べられた。



7. 参加者の感想

事後アンケートでは、29名から回答があり（回答率76.3%）、「ワークショップの満足度」については「非常に満足」「満足」と回答した参加者が計29名で100%を占めた。また、「カジュアルネットワーキングにおける新しいつながりや有益な情報交換」についても、「よくできた」「できた」と回答した参加者が25名（86.2%）にのぼった。

自由記述では、ALに関して「質問会議を通して、日頃いかに『意見』から会話を始めているかを自覚できた」「質問のみで進行する手法が生み出す心理的安全性の高さを実感した」といった感想が寄せられた。さらに、ネットワーキングに関しても「他大学の職員や現役大学生と意見交換ができてよかった」「他大学の職員とつながりを持ち、現場レベルでの課題や取り組みを共有できた」といった意見がみられた。これらの回答から、参加者が本ワークショップを通じて多角的な視点を得るとともに、新たな交流の機会を得られたことがうかがえる。

8. 所感

今回のワークショップは、加盟校職員が質問会議を体験することでリーダーシップスキルの向上を図るとともに、加盟校間の交流を深めることを目的として開催した。ALが初めての参加者もいたが、学生ALコーチの円滑な進行と、類似部門の職員で構成されたグループ編成により、積極的な参加が促され、終始和やかな雰囲気の中でセッションが展開された。参加者の感想からは、質問による対話が傾聴や心理的安全性を生み出し、思考の整理や課題の深掘りに大きく寄与したことがうかがえる。さらに、事後アンケートにおいて満足度が100%という結果が示されたことから、本プログラムの有効性が裏付けられた。また、他大学職員や学生との交流を通じて視野が広がり、現場レベルの課題を共有できたとの声も多く寄せられ、ネットワーキングの成果も顕著であった。今後も加盟校職員のFD・SD共通化と人的交流の促進を含めた、加盟校間の連携強化を図る機会として、継続的に発展させていきたい。



本セミナーはこんな方にオススメです！

- 学修成果の把握、可視化について大学で進めていきたい
 - 学生向けの各種調査、アンケートの設問設計方法を学びたい
 - 学修成果の把握、可視化の事例について知りたい
- 「出口における質保証」「認証評価制度の見直し」に対応すべく、上記内容の理解を深めることを目的に実施します。

申し込み・その他

参加費無料

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員、本テーマに関心のある方ならだれでも参加可能です。右のQRコードよりお申し込みください。



学修成果の把握・可視化のための アンケート設計

【実施日時】 11月20日（木） 14:00～16:00

【実施形態】 Zoomによるオンライン

【内容】 質疑応答含む

- ・学修成果の把握・可視化で求められていること、東京科学大学における事例
- ・学生向け各種調査・アンケートの整理・設計の方法、設問設計の工夫 など

【講師】

森 雅生（もり まさお）氏 東京科学大学 戦略本部 教授



1996年九州大学総合理工学研究科 博士後期課程単位取得後退学、2011年同大学システム情報学府より博士（情報科学）を取得。1996年より九州大学システム情報科学研究院にて助手、2006年より同大学 大学評価情報室にて助教・准教授として大学評価・IRの研究と業務に従事、2015年より東京工業大学にて情報活用IR室専任教授に就任、2024年10月の東京医科歯科大学との統合により東京科学大学戦略本部IR部門長に就任、現在に至る。大学IRの普及と発展を目的に、大学情報・機関調査研究会（MJIR）および国際会議（DSIR）を設立。2019年、日本インスティテューショナル・リサーチ協会を有志と設立し、会長および理事としてIRの普及活動へ貢献。また、IR情報の基盤として研究者の永続的識別子（PID）の必要性に早くから注目、2020年には機関を対象とするORCID日本コンソーシアムの設立を有志とともにやり、同コンソーシアム運営委員会の委員長としてORCIDの普及と展開に寄与している。

松本 清（まつもと さやか）氏 東京科学大学 戦略本部 IR部門 マネジメント准教授



2008年に奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了（博士（学術））。その後、産業技術総合研究所や九州大学では生体計測による環境評価研究に、立命館大学では学生支援とその成果評価に従事。2022年により現職（当時は東京工業大学企画本部）。主な所属学会・協会は、日本IR協会（理事）、日本教育情報学会、日本ビジネス実務学会、日本アカデミック・アドバイジング協会、日本体育学会、日本バイオフィードバック学会、Society for Neuroscience。



認証評価に関する FD・SD研修

日時

2026/2/10 火
13:00～16:00
※参加無料

大学コンソーシアムひょうご神戸では、従来より内部質保証やIR等に関するセミナーを開催しています。今回は、認証評価において多くの課題が指摘されている“内部質保証”や“学修成果の把握”に関する課題や改善方策、「知の総和答申」を受けた認証評価制度の見直しの最新状況等を学ぶとともに、ワークショップ形式で評価作業を実際に行うことを通じて自己評価書の作成のポイントを分かりやすく体得します。

内容

【第一部】「認証評価への対応に関するセミナー」(講演)

13:00～13:50 ※対面、オンライン併用

内部質保証や学習成果の把握に関する陥りやすい課題、改善方策等のポイント、認証評価制度の見直しの状況 等

【第二部】「認証評価・自己評価書研修会」 **第二部 定員40名**

14:00～16:00 ※対面のみ

ワークショップ形式（個人ワーク、グループワーク）、架空大学の自己評価書を対象とする評価作業、解説

対象者

本テーマに関心のある方
※特に第二部は、実務で認証評価に関わる教職員の方（初心者から中級者を対象）

場所

兵庫国際交流会 1階
Nadacom Station

【アクセス】

- ・阪神「岩屋」駅徒歩3分
- ・JR「灘」駅徒歩5分
- ・阪急「王子公園」駅徒歩10分



申込方法

QRコードより事前申込

▼申し込みはこちらから



POINT 1 /

認証評価、内部質保証、学修成果の把握の課題を学ぶ

第1部では、認証評価において多くの課題が指摘されている内部質保証等に関して、陥りやすい課題、改善方策等のポイントを学びます。

POINT 2 /

自己評価書を用いたワークショップの実施

第2部では、架空大学の自己評価書を対象とする評価作業を行うことで、第1部で説明した内部質保証等に関するポイントを踏まえた自己評価書の作成技能を体得します。

講師紹介

高田 英一 氏

神戸大学 戦略企画室 教授・博士（学術、九州大学）
専門は、高等教育、大学評価、内部質保証、大学経営等。
名古屋大学大学院教育発達科学研究科、九州大学大学評価情報室等を経て、2017年より現職。
現在、大学基準協会大学評価研究所研究員等を務める。

